

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 3 月 2 日

【評価実施概要】

事業所番号	4090800089		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ土井		
所在地	福岡市東区若宮1丁目27番24号 〒813-0036 (電話) 092-674-1551		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年2月24日	評価確定日	平成22年3月16日

【情報提供票より】(平成 22 年 1 月 29 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 ・ 平成 21 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13 人	非常勤 2 人 常勤換算 15 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての ~ 1,2 階部分		

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	20,640 円	
敷金	有 (138,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有 (円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日あたり	1,000 円程度		

(4) 利用者の概要 (1 月 29 日現在)

登録人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	1 名	要介護 2	7 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	2 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	70 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原土井病院、千鳥橋病院、松崎クリニック、藤野歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

リビングは広く開放感があり、程よい自然喚起と採光が相まって、居心地のよい空間となっている。利用者が見せるさりげない気づかいや何気ない会話、来客者に対する心配りなど、日々のケアを通じて利用者から学ぶことは多く、利用者からの学びは職員にとって貴重な財産となっている。今年度は、新型インフルエンザ感染の影響及び利用者の状況変化に伴い、個別支援に特化し、特に日常における外出支援に取り組んでいる。法人の経営移行をきっかけとして、この半年間は、再度ケアの方向性の統一を図るため、日々のケア内容の見直しを行い、ホーム目標である「心に寄り添うケア」の再確認と具現化、及び利用者の視点にたったケアの徹底に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目:外部4) 外部評価の意義や理解に向けて、ホーム会議にて勉強会を行うなどの取組がある。前回の評価結果については、運営推進会議にて報告が行われ、自由に閲覧が可能である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4) 今回の受審にあたり、職員がかかわって自己評価に取り組んでいる。この過程において、職員にとって、日々のケアの振り返りを行うなど現状を考える機会となり、気づきを持ってサービスの質の向上に活かす体制がある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 関係者を招いての2ヶ月毎の開催がある。外部評価結果や事業所の状況などについての報告の他に、地域包括支援センター職員による成年後見制度等の説明など、情報提供・情報交換の場となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時の声かけやその都度の電話連絡、運営推進会議時等を利用して報告が行われている。毎月、写真を多く掲載した通信を発行し、通信に利用者一人ひとりの状況を記すことにより生活ぶりを知らせている。出された意見等については、ホーム会議やユニットカンファレンスにて共有するなどの取組がある。
重点項目	日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3) 日常的な散歩や買物、公民館行事への参加、高校生の職場体験の受入れなど、地域との普段着のお付き合いが行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	法人理念以外に、職員と協議してホーム目標 を作成している。利用者の心に寄り添い、地域 との日常的なお付き合いを意識したケアに取り 組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ユニットカンファレンスにて、ケアの振り返 りを通じたホーム目標についての共有と浸透へ の取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	日常的な散歩や買物、公民館行事への参加、 高校生の職場体験の受入れなど、地域との交流 が行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	外部評価の意義や理解に向けて、ホーム会議 にて勉強会を行うなどの取組みがある。前回の 評価結果については、運営推進会議にて報告が 行われ、自由に閲覧が可能である。今回の受審 にあたり、職員がかかわっての自己評価への取 組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	関係者を招いての2ヶ月毎の開催がある。外部評価結果や事業所の状況などについての報告の他に、地域包括支援センター職員による成年後見制度等の説明など、情報提供・情報交換の場となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加が見られる。介護保険に関する質問等、その都度相談を行いアドバイスを受けたり、空き状況の問い合わせを受けるなど、行政との連携がある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営推進会議時に、地域包括支援センター職員による制度等についての説明や勉強会への取り組みがある。運営推進会議には、全家族へ参加を呼びかけており、運営推進会議時の説明を通じて、家族・職員は学びを得ている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡、運営推進会議時等を利用して報告が行われている。毎月、写真を多く掲載した通信を発行し、通信に利用者一人ひとりの状況を記すことにより、生活ぶりを知らせている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時や運営推進会議時、その都度の電話連絡、通信の発行などを通じて、家族の意見や思いの表出に努めている。出された意見等については、ホーム会議やユニットカンファレンスにて共有するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員が入職した場合は、利用者とのコミュニケーションをとってもらうことから始めるなど、馴染みの関係作りへの取り組みがある。ユニット間で、職員バランスを考慮した配置を行い、先輩職員が指導にあたるなど、利用者のダメージを防ぐ取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、何らの制限も行われていない。会社としての募集であり、その時々にあった人材や適性を考慮しての採用である。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者の権利や虐待などのテーマを取り上げてホーム勉強会を行うなどの取り組みがある。		マスメディア等で取り上げられる話題や生活の中の出来事から、高齢者の人権に留まらない幅広い視点での人権についての勉強会や、行政等で行われる講話への参加など、職員一人ひとりの人権意識を喚起する取り組みに期待します。
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内や勉強会の案内を提示して希望を募るなど、勉強会や研修への参加の機会がある。運営推進会議時を利用した勉強会、ホーム勉強会への取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の病院等で行われる勉強会への参加、地域医療機関のソーシャルワーカーとの定期的な交流などを通じて、情報交換や連携が図られている。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の数回の面談を通じて、顔見知りの関係を築き、利用者の不安を軽減するような取組みがある。入居前の面談にて得た情報を職員間で共有し、円滑に馴染めるような支援がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の人生経験に触れることで人間としての器の大きさを感じるなど、精神的な面で感じ、学んでいる。「心に寄り添う」という目標を意識しながら、ケアに携わっている様子が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりを通じて、利用者の思いや意向の把握に努めている。家族面会時、通信の送付、電話連絡等を通じて、家族の希望の把握が行われている。		現在検討している、利用者の思いや意向の汲み取り方法などについての勉強会を重ねられ、汲み取った思いや意向をセンター方式に記録するなど、充実したアセスメントとなるような取組みに期待します。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者にかかわる医療機関等との意見交換、家族の面会時等を利用した家族の希望の把握、ユニットカンファレンスにて職員の意見や気づきを聞いて、介護計画書の作成が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月のユニットカンファレンスにて、利用者 一人ひとりの状況やケア内容についての確認が 行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	行きつけの美容室の利用支援、利用者の希望 や状況に応じた訪問マッサージ、訪問看護の利 用、専門科医院の往診受入れ、協力病院との連 携による適切な医療受診の支援など、柔軟な対 応が行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力病院があるも、今までのかかりつ け医への受診は、家族対応で可能である。ホー ム協力病院の医師による往診や緊急時の受入れ 体制、必要に応じた専門科医院の往診受入れな ど、適切な医療受診への対応がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	病状等の変化に応じて家族へ説明し、家族の 希望の把握が行われている。全家族・利用者に 対しての意向の確認は、これからである。		日々のかかわりの中での言動や行動などか ら本人の気持ちを探り、アンケート等の方法 により家族の意向の把握を実施したり、その 人らしいあり方を支援するツールとして、セ ンター方式の内容の充実と情報共有を図る等 の取組みに期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	ユニットカンファレンスやホーム勉強会に て、利用者（高齢者）の尊厳に関する研修への 取組みがある。「心に寄り添う」という目標の もと、利用者一人ひとりに寄り添った対応が見 られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者一人ひとりの状況にあわせて、食事 にかかる時間や入浴のタイミング、日中の過 ごし方など、利用者のペースに合わせた対応 が見られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	メニューは、各フロアの担当職員が話し合 い、利用者の嗜好や希望を考慮して作成して いる。テーブル拭き、料理の下ごしらえや卵を割 るなどの準備、来客に対する心づかいなど、利 用者のできることを活かした支援が見られた。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	毎日の入浴実施である。利用者毎にお湯を入 れ替え、数種類の入浴剤の中から好みの入浴剤 を使用するなど、入浴が楽しみとなるような取 組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	テーブル拭き、料理の下ごしらえ、準備、お 茶だし、茶碗洗い、洗濯物干し、洗濯物たた み、花活け、コーラスへの参加など、利用者 のできることや趣味を把握しての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩や買物等の外出、公民館行事へ の参加、個別支援としての喫茶店でのティ タイムの実施など、日常的な外出支援への取 組みがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠されており、自由に出入りでき る。玄関ホールにはセンサーが設置されて おり、利用者と一緒に出かけたり、さりげ ない見守りや声かけが行われている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、消防署の立会いによる避難訓練の 実施がある。運営推進会議時に、避難訓練 の話を行うなど、地域の協力を得るため の取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは、各フロアの担当職員が話し合 ったの作成である。栄養士の資格を持つ 職員が在籍しており、その職員からメ ニューについて助言を得るなど、栄養価 やバランス面へも配慮している。利用 者の嚥下状態に合わせて、小さく切 るなどの支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	1階の玄関ホールは、季節を意識したインテ リアや生花がさりげなく飾られている。各フロ アのリビングは、程よい採光と自然喚起の中、 くつろげる空間となっていた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、箆笥、仏壇、姿見などの 使い慣れた物や馴染みの物が持ち込まれてお り、利用者の個性が伺える居室であった。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号